

**平成28年度  
第2回藤島地域振興懇談会  
会議録(概要)**

期 日：平成28年11月21日(月)

場 所：鶴岡市藤島庁舎

2階202・203会議室

## 第2回藤島地域振興懇談会会議録（概要）

- 日 時 平成28年11月21日(月) 午前10時～11時50分
- 会 場 鶴岡市藤島庁舎2階202・203号会議室
- 出席委員（五十音順） 8名  
上野隆一、奥山康光、小野寺菊子、佐藤耕喜、高山千代子、富樫達喜、  
富樫正明、丸山克夫
- 欠席委員 6名 五十嵐笑智子、上田実、大井茂、押井一之、佐藤二美、田中壽一
- 市側出席職員  
〈藤島庁舎〉 支所長 佐藤正規、市民福祉課長 叶野明美、産業課長 小林正雄、  
東部建設事務室長 太田実、総務企画課長 本間光夫  
総務企画課課長補佐 井上克浩、総務企画課総務地域振興専門員 齋藤芳、  
総務企画課専門員 叶野進  
〈本所〉 政策企画課課長補佐 上野修 政策企画課専門員 丸山大輔  
地域振興課地域振興専門員 本間育子
- 傍聴者 なし
- 次 第
  - 1 開 会
  - 2 会長あいさつ
  - 3 協 議
    - (1) 鶴岡市総合計画実施計画（H29-31）の策定について
    - (2) その他
  - 4 閉 会

### 【会議の概要】

1. 開 会（総務企画課長）
2. 会長あいさつ（上野会長）
3. 協 議
  - (1) 鶴岡市総合計画実施計画（H29-31）の策定について
    - － 政策企画課課長補佐 資料1により説明 －
  - (2) その他
4. 開 会（総務企画課長）

### 3. 協 議

#### (1) 鶴岡市総合計画実施計画（H29-31）の策定について

－ 政策企画課課長補佐 資料1により説明 －

**○上野隆一会長** 今後審議がされるということではありますが、皆さん、思うところを存分に述べてください。

**○富樫達喜委員** これは2年かけて、次の10年間の計画をつくるものなのですか。

**○上野政策企画課課長補佐** 今の総合計画は30年度までの10年間の計画で、これは総合計画に従った実施計画です。次の総合計画は来年から2年かけて作ることになりますが、今は現状の計画に従った内容です。

**○佐藤支所長** 今の総合計画はすでにあって、今回もそれに基づいた3年間の計画を立てますというものです。平成30年からの計画は来年度から2年間かけて新しい10年スパンのものを作りますということです。

**○奥山康光委員** 歴史公園についてP48 頁にもあるが冬場どうするのか伺いたい。先日、友人が、あの公園を主に利用しているのが我が家だというので理由を聞いたら、子供をつれて芝生の山でそりすべりをしているが、ほとんど自分の家族しかなくてたまに他の子供が来てそりの作り方教えてやると喜んでくれる、という話でした。今年の冬にはイルミネーションをつけられると思うのですが、話を聞いていると何年間かけて徐々につけていくということでしたが、何年間かけても光がちらほらある、ちょっとした光で終わってしまわないように地域住民に寄付を呼び掛けて、一気に歴史公園がきれいにライトアップされて、「藤島にあんなきれいな場所あったよ」という風にするべきと思います。商工会も藤島に本所がありますし、商工会さんからも力を貸していただき、あとは地元住民に寄付を呼びかけて、一年目から立派なイルミネーションを作っただけであれば、有効活用につながると思っていますし、寄付した方には、歴史公園の一角に寄付された方の名前をおしゃれに提示してもらえれば出資する方も喜んで出してくれると思います。そうすると個人で出資する人も出ると思います。そのように、ぜひイルミネーションを1年目から大々的にやっていただきたい。

**○富樫達喜委員** 多くの山大生が参加してくれたワークショップの席上で、大学生から鶴岡市内の空き家対策について、有効活用という観点から希望者へ大学生へよそから来ている人が大勢いるので貸すことは出来ないだろうかという意見が出ました。それにはいろいろ法的なものもあるだろうし、それを生業にしている人の首を絞めることになるので、難しいでしょう、と言ったのですが、なんらかの機会に担当者に話しておきますよと言った

ので、可能であればそういう検討もしてみたいかがでしょうか。

農業担い手については、10年前から危機感を持っていたのですが、私たちが抱いていたものよりはるかにスピードが速い。この地域でも全部の集落でも10年後に果たしてどの位の担い手が農業の労働力として残っているだろうかと考えただけで鳥肌が立つくらいの思いをしています。市としても色々な施策で頑張っているみたいですが、現在の見通しはどうなっているのか伺いたい。

**○小林産業課長** 担い手と言いますと新規就農者ということになります。新規就農者の数については、山形県内では少し前は微増でしたがここ数年では大幅に増加しています。市内でも同じような状況にあります。ただ、今後も続くかと言いますと、今後の農業情勢によって変わってくるのかなと思われれます。新規就農者が農業に取り組みやすいようにというように新規就農者への国の制度もありますし、先ほど申し上げました山大との連携により新規就農者が研修を受けられる体制を整備をしたり、新規就農者アドバイザーを市としても整備しております。今後の計画では増えていくというのですが、減らないようにあるいは増えていくような取り組みを行っていく必要があると思っております。

**○富樫正明委員** 東京オリンピックを見据えたところがあるが、オリンピックがあった年は良いのですが、その後に困らないように祭りがあった後みたいに静まり返ってしまうこともありますので、無駄な建物は建てないようにやっていただきたい。

P21の空き家の適正管理の有効活用として寄付を受けた空き家の活用とありますが、これはどういう意味での寄付でしょうか。空き家の持ち主が市に寄付した場合ということですか。

**○上野政策企画課課長補佐** 中心市街地に地域を限定しているが、ランドバンクという団体が、寄付を受けて解体・更地にして売りそこから解体費を捻出するというものです。

**○富樫正明委員** それを公費でやるというのですか。

**○上野政策企画課課長補佐** 違います。そこは売ったお金で上手くやるというものです。ただ、どこの土地でも良いというのではなく、狭い小路で小さな敷地だとするとなかなかそれだけで売れないもので、何件かまとまった状態で売れるという調整に入って、1つの宅地にするということをやっています。

**○富樫正明委員** 藤島地域の各町内会を回ってみると、空き家結構あって、そして誰も管理しないものだから屋根とかが崩れてきているものもあります。消防団の立場から見ると火災がおきたら大変だなという感じがしますが、そういうのは市の方で、解体するか手は回せないのでしょうか。

**○上野政策企画課課長補佐** 空き家のことはどこの地域に行っても言われます。最初は所有者に対応してくださいということになるのですが、そういうお話があると大抵、所有者がいなくて東京とか他所にいつているというケースがほとんどです。市としては所有者を捜して、連絡を取り、町内会長さんに連絡取ってもらう、ということで基本的には持っている人がやってください。ということになります。どうしても危ないものは、まだ市としては事例はないのですが、今後緊急的にやらないといけなくなるとやった上で、その経費を請求するという方法もあります。そこは市としてますます増えていくことになると思いますので課題の一つと受け止めております。

**○富樫正明委員** 地域を見回っていると結構危険な建物がありますので、そこ何とかよろしくをお願いします。

**○丸山克夫委員** 歴史公園についてですが、この前テープで迷路を作っていた。あんな風に簡単に子供たちが遊べるのは良いなと思いましたが、この時期なので、寒くなって人が出なくなってからするのではなく、自分でもやってみたら楽しかったのもう少しあのような手軽に遊べることを来年春にやってみたら良いと思います。

それから、いつも思うのだが、先端生命科学研究所を活かした産業で様々やっているようだが、それで実際に企業としてやった時にどの位雇用が生まれてくるのか。結局、人口が減っていくというのは外に流れて行っているということだから、これで人口流出を止めていけているのか、ということです。どの程度の雇用が出来ているのかといつも思っている。それと、人材育成とか様々いうけれども、人材育成したけれどもそれを活用する場所があるのか。ないということで結局またそれを活かすために外に出ていくということになっている。子供たちが大学に行ってこちらに来いと言っても、戻ってこない大きな原因だと思います。その辺に対し、どのような対策とって行くのかと常々思っています。

**○上野政策企画課課長補佐** 先端生命科学研究所関係の雇用で申し上げますと、スパイバー社で100人位雇用しています。その他、唾液を使ったガン検査、便による検査、心臓の筋再生研究など4つの会社があるが始めたばかりのため未だ10数人しか雇用していない状況です。そのような会社が大きくなってスパイバー社みたいにある程度雇用が図られるように、市としても先端的な産業に支援をしているところです。ただ、市としては既存の工業団地にある企業にも支援を続けておりまして、雇用の規模としては格段に大きく雇用のベースになっています。新たな分野の雇用改革と両輪で進めているというイメージです。

**○丸山克夫委員** 企業で生産化するときに地元で行ってくればよいのだが、立地条件と等で他所に工場を建てますということになって、ここは研究施設だけで終わると雇用の拡大にならないのか心配です。

**○上野政策企画課課長補佐** たしかに研究施設だけで終わってしまいますと、雇用の拡大にならない。そこで、市でも生産に入るのであればここに拠点を持ってきてくれということをお願いしている。

**○丸山克夫委員** そういうのを上手く引き留めて、地元でやれるように様々やっているのでしょうか。

**○上野政策企画課課長補佐** 地元立地企業へ初期投資分を固定資産税一部免除で補助するとかの支援を行っている。そのように新規立地とか増設などを誘導している。そんなに大きな額ではないのですが、その他、立地した場合の県の支援制度もありますので、それらも紹介しながら企業さんに拡充をお願いしているところです。

**○上野隆一会長** あそこは、今までなかったタイプで、何十年か前に鶴岡が駅の北側に工業団地が出来て、山形・庄内には来なかったような企業が来たということで話題になりました。同じようなことが今始まろうとしている感じでないかと思います。サイエンスパーク 21ha、街のそばにスゴイに広さの敷地です。もちろん土地だけでなく金額もすごかったです。サイエンスパークは 10 年前に比較すると現実味を帯びてかなり現実的になってきているようです。

**○佐藤耕喜委員** 普段、田んぼの風景にどっぷりつかっているのですが、この前気づいたのですが、最近、藤浪橋から先の駅側がきれいになっていきましたが、あそこ全体が出来るのはいつ頃の予定なのか気になりました。あと、反対側のまっすぐ行ったところに石川屋さんの空き家があるのも気になります。それから、羽黒との境で畑を作りながら辺りを眺めていると、転作対策というか耕作放棄地がかなりあることが気になります。この間も農業委員会、隣の耕作放棄地にいるハクビシン・タヌキに畑の作物が荒らされるので、持ち主に伝えてほしいとお願いしたら電話連絡してくれたようで、草を刈ってくれました。そういった耕作放棄地が結構見えます。我々も藤島で転作ということで、色々やっていますが、地域間（旧市町村）で対策というか、指導に差があるのか伺いたい。

**○太田東部建設事務室長** 都市計画道路は途中までの新町橋付近まで出来ていて、そこから駅の方に向かって着々と進めております。今年度は用地買収と補償を進めていて、来年度用地・補償完了、30 年頃には工事に入れるかという状況です。後は予算次第というところです。都市計画道路はそういった状況です。石川屋のあたりのことですが、特に駅前の民地について市としてどうするという計画はございません。

**○佐藤耕喜委員** 都市計画道路というのは、若いころから聞いているが何時なっても進まないなと思って聞いてみました。

○**太田東部建設事務室長** 毎年、国の予算が何億と決まりがあるわけでないので、予測が付かないというのが実情です。何年まで出来る。完成させるということはとても言えない状態ですけれども、概ね30年代前半までを目標に進めているというものであります。橋の歩道橋の工事もあるので予算のつき方次第ではっきりと申し上げられない状況です。

○**小林産業課長** 耕作放棄地対策については、旧市町村での違いは特にはないのですが、ただ転作の配分は旧市町村で配分が違ったので、合併当時から調整を進めて28年度から統一されています。それ以外の制度自体も旧市町村での違いはなく、ただ耕作放棄地への作付の取り組み自体には地域性があるかとは思いますが、やはり、農業者の高齢化とか後継者不足で手が回らないとかでどうしても耕作放棄地を手を付けられないという現状がそういうようなことになっているのかと思われまます。取り組み自体は地域性があるかもしれませんが、制度上の市の施策においても違いはないものです。

○**佐藤耕喜委員** 最近、農業新聞で、地域の農業委員会が放棄地を集積して事業として作物を作っているものが載っています。実際この農業委員の人たちも結構回っていて、どこに耕作放棄地があるとか確認しているようです。国の助成でも支援事業あるわけですので、よくよく条件が悪い土地でなければ、そのような制度を利用した耕作放棄地への取り組みは望めるわけですので、そこへの指導がもう少しあると自分でも向かっていけるのかなと思えます。

○**高山千代子委員** 先程、会長のお話しにもありました、高齢化・人口減少がいろんな話の中に出てきております。確かに子供が減って小学校のクラスの数も減り、複式学級の話も出てきております。今までなかった東栄小学校でもなりそうな話も出てきて、長沼もそうですし将来的にどうなるのかなということがすごく心配で、身近に感じてきているのが現状です。それに伴って、地域の中、町内会の中で子供の声が聞かなくなっているというのが、だいぶ言われて久しいです。地域コミュニティ、町内会の維持が大変、役員のみなり手もないとか、そういう話も聞こえてきています。その中で、先ほどのメタボルームの話も企業が来ることによって他から来る人が結構いるとお伺いしました。そのような人達がこちらで家庭を持って、増えていくということも一つの希望であるのですが、UターンIターンと書いてありますように、都会でちゃんと仕事を持っているが、家庭は持たずにやっている人も結構いると思えますので、そういった方々への働きかけもやってほしいと思えます。そのためには、仕事場がないと駄目なわけですので、難しい問題だと思いますが、そこらへんが原点にあるのかなと思えますので、なんとかしてほしいところです。

高齢者の方は将来的には福祉の方に頼っていくことになると思えますが、頼れる先がだんだん先細りになっています。庁舎の職員もだんだん人数が少なくなっています。地域包括の充実とありますが、中央だけでなく地域のそういう目も拾い上げてくれる、情報収集してくれるところを充実していただきたいです。

**○上野隆一会長** ただいまの意見は P16 まち・ひと・しごとの部分になるかと思います。この部分をもう少し丁寧に説明していただきたい。

**○上野政策企画課長補佐** 4つの分野を基に組み立てて行くわけですが、仕事を作りましょうというところで、代表的なものはメタボロームを活用したということで紹介させていただきましたが、それはそれで進めますし、先ほどのベースの企業支援も続けて、そこはさらに雇用の維持をして、その上で拡大・充幅していただくということで進めています。専門学校、就職も含めて今、年間 600 人位が高校を卒業すると外に出ていく。その人たちがいかに帰ってきてもらうかということがひとつと、そもそも出て行かないで、高校卒業してすぐにそのまま勤めてもらえば一番良いので、その 2 本立てて今は考えているところです。外に行ってしまった人に対しては、情報発信して鶴岡の良さを再確認してもらおう。もともと住んでいた人なので自然とか良いところは、当然分かる。そういう企業情報を商工課が流している。もう一方で高校卒業後に、そのまま就職していくところでは、子供に企業を覚えてもらい選択肢を広げてもらうことが必要になってきます。どうしても親の意見というのは子供に大きいので、親からも地元の企業を覚えてもらうため親からも地元の独自の技術を持ってやっている会社や、鶴岡で作った製品が有名な製品の中に入っていると、知ってもらう必要があるということです。具体的には始まっていないので、今後取り組む必要があるところです。

そういった意味で仕事場をつくるということと、戻ってきて定着するのというところを併せて進めています。その他、安心して住めるとかというのは、医療であったりとか防災であったりとか生活全般です。住む前提としては、移住者とか地元の子供達区別なく住んでいる方、地域づくりというのがありますし、もうひとつ子育て出来る環境整備というのがあります。

育児への支援とか、その前に妊娠から出産までとかのケアについては、他の地域に比べたら少し手厚くやっています。保健師さんが訪問したりしていますが、もっと顔出したい、もっとケアしていきたいということも言われています。生まれた後も保育園に入れなくてか病中病後児保育が充実していないとか、学童保育とか。まだ解決していないことは、少しずつ拡充していき、人口が増えていくことは今後なかなかないと思うのですが、人口減少のカーブをなるべく減らしていきたいということで、今、取り組んでいるところです。

**○上野隆一会長** だいぶ考えているようですが、見えないものです。

**○高山千代子委員** 時間かかるものですね。

**○小野寺菊子委員** 私の集落を見ても一人暮らしとか夫婦で暮らしている方が多くなって、どうなっていくのかなという不安を持っています。自分たちが、健康でまず生きている間



は健康でみんなに迷惑をかけないように生きていかなければと思っています。

今、結婚できない人が多くいるという中で、前に結婚相談という話も聞きましたが、その活動がどうなっていて、やはり結婚できないでいる人たちがどの位いるのかもちょっとお聞きしたいと思いました。

**○上野政策企画課長代理** 出来ない人の数は分からないですが、婚活のイベントを庄内全体でいうと、小さいものも入れると年間で 300 以上 400 近くあります。規模が大きいだけで 100 位。簡単に言うと 3 日 4 日に一度どこかでやっているという感じです。それだけやるということはそれだけ人がいるということになるのかと思われまます。

**○小野寺菊子委員** 成果はどうですか。

**○上野政策企画課長代理** 成果はというと。その時はカップルが出来るのですが、追跡できなく、その後のことを教えてくれる人は少ないです。結婚したら必ず教えてくださいということも言えないため、噂でどうなったか聞こえてきて、鶴岡市の中でも何組は結婚したとか聞こえていますが、実際はもっとあると思います。

婚活イベントの他に、婚シェルジュという世話焼きをしてくれる方が数十名いまして、今、研修をしてもらっていて、婚活イベントしながら、くっつける役割なんかもしてもらっています。

**○本間地域振興専門員** いま、鶴岡市の方で婚活についていろいろやっておりますが、お話ししましたとおり、イベントは少々飽和状態です。で、民間も含めて色んなところで色々なイベントが開催されておりますが、出席する人も少々固定化されております。またプライドが高く、婚活のイベントに出ること自体も負け組に入っているという意識もあってなかなか参加出来ないという人も多くおります。

今のところの現状といたしまして、両輪として、婚シェルジュという世話焼きさん制度があります。紹介依頼の登録している人が多くなり、婚シェルジュ 1 人当たりの担当数が多くなり負担もありますし、もっと関わってもらいたいというから、今年度第 2 期の婚シェルジュの養成を行いまして 40 名の婚シェルジュが育っているところです。

今後、鶴岡市としては、婚活イベントをすればいいと思っておりません。現在、県の事業でも高校に出向いて自分のライフプランというものを高校生のうちから考え、結婚すると 10 年後に自分がどうなっているのかを考えてもらう事業をおこなっておりますし、逆に皆様から結婚はこんなに良いものだよという姿を見せてもらいたいと思います。

また企業でも採用されている人数に限られ、直接上司が結婚どうだと言ってもセクハラだのパワハラだのということになって勧められないようですので、そういった企業間の連携ということで、異業者交流の会の機会も設けていきます。わかりやすい婚活のイベントだけでなく、親御さんを対象としたセミナーですとか、そういったいかにも婚活でないイ

ベントによって、協働作業からそういった仲良くなっていくムードを作っていく。そのような機会を作っていく。というところです。

**○富樫達喜委員** 鶴岡は、これから10年先まで農業が基幹産業であることは変わらないと思います。それについて藤島地域は人と環境にやさしいまちづくりを基本理念に、エコタウンプロジェクトを立ち上げて、今日まで来たというところであります。このプロジェクトの目玉になっていたのが堆肥センター（エコ有機センター）の設立であって、やはりそれは対外的にも評価の高かった施設であります。これが最近噂によると廃止にすることでした。これが本当に廃止にすることになると、色々意見があろうとも、市で維持をするということが非常に大きなポイントで、説得力のあるPR効果の高い施設になるだろうなと思って見ております。

というのは、今までは六次化産業という言葉が私どもの資料には公然のようにあふれていたのですが、最近はこの資料にもほとんど出ていないとおり、六次産業というのはあまり使われなくなってきた。農家の人も良く理解していない。地域の中においても非常に理解されないものでした。今までやれる人は色んな形で六次化産業というのはどうやってきた。それにやはり、皆でやれと言ってもなかなか出来ないというあきらめの方が先に立ったという。最近、変わって出てきたのが、高収益作物いわゆる園芸作物というのが今まさにいるんな資料の中に反乱をしてくている。では、この高収益作物ってなんだと問い合わせると、ほとんど答えは返ってこない。ただ、今はこういう高収益作物の作付をすすめない色んな制度にのっていないという事実もありますので、これから十分考えていかなければいけないことです。高収益作物といういわゆる園芸作物に結びついていくと思います。そのようなことを考えた場合に、核として、たい肥センターという施設はこれから一番大切になっていくのかなと、そんな想いもしております。というのも近年、三浦半島に視察に行った時に見た大根農家では、わざわざ堆肥の購入のためにダンプをフェリーのあるところまで取りに、はるか遠くに行って運んできていたのです。それをやらないとやっぱり駄目だということでした。この地域の中で、園芸作物をこれからどうしても取り組まざるをえないということになっていくと、堆肥の製造というのはやはり大切なことになっていくと思われ、ぜひ、民間やJAではなく、市としてきちんと取り組んでいただけたら非常にありがたいと思っております。

それと最初に私が質問したとおり、後継者の問題で私ども非常に悩んでいる。というのもどうしても今、米の値段がこれだけ下がってきている、将来ももっともっと生産調整が進めていかなければならないだろうという中で、どうしても30年以降は、コストの競争になると見て見えています。過去を振り返ってみれば、昭和の時代に圃場整備をやりました。やる前の10a当り投下労働時間60時間でしたが、圃場整備によって今は20時間弱まで下がりました。今後は、今の16時間をさらに1/3位までに減らしていかないとコスト的な競争は出来ないと見ています。そのためにも、今見れば確かに整然と整備された庄内平野ですが、さらに大区画整備圃場に整備進めていく必要があるだろうと思っております。な

んせ、金と時間のかかる大プロジェクトになるので今からしっかり進めていかないといけない。これから先の計画と言わないで今から色々な機会に行政の中でも議論してしっかりと進めてもらいたいなと要望しておきます。

**○上野隆一会長** いまのは 2 つ要望事項ということで、堆肥センターについてはたしか行財政改革の委員会の中でも、あそこは確か廃止というふうに決まったはずです。こういったご意見もありますので、もう一回論議いただくということでどうかと思います。

**○富樫達喜委員** 要望しておきますので、十分にご検討いただくようお願いします。

**○奥山康光委員** 2 点ほどお伺いしたいのですが、1 つは先程からお話に出ておりますサイエンスパークについてですが、サイエンスパークというものは我々が見学したいという希望があれば見せていただけるのか伺いたいです。もう一つは UI ターンでしたか。あれについて先程、毎年 600 名くらいが流れて行って、そういう方々には案内しているということでしたが、昔から都市に住んでいる方であったり、庄内以外から例えば関東圏に住んでいる方に PR しているのか。伺わせていただきたいです。

**○上野政策企画課課長補佐** サイエンスパークについては、随時見学は受け付けております。ただ、慶応大学の建物と市の建物の 2 つがあって、市の建物の見学は随時相談いただければ、例えば町内会単位での見学会などは、市役所政策企画課までに電話で申し込んでいただくという形になります。

UI ターンですが、鶴岡関係者以外の方になりますと、東京に県の移住情報発信センターがあり、そこに県の移住コンシェルジュという方がいます。鶴岡と限らず県内の市町村の情報を持って相談を受けている方なので、そういった方を中心に情報提供して移住希望の方の相談にのっているところです。実際には、来てくれれば情報提供しますが、相談している方はそんなに多くなく、そこは県としても難しいところだと思います。

その他に、ふるさと会とか東京に会がありますけれども、そういったところにも会毎に情報提供をしております。知り合いの方に伝えて下さいということをお願いしております。

**○本間地域振興専門員** 地域振興課が移住を担当しておりますので補足説明いたします。首都圏におきまして移住コーディネーター、職員、もちろん職業の関係もありますので商工課の職員も一緒にこちらから首都圏に出向きましてプロモーション活動というものを行っております。これが年に 5、6 回は行っております。10 月も 1、2 回、1 月にも何回か予定しております。まったく鶴岡に縁のない方を引っ張ってくるというよりは、もともと鶴岡にいて就学・就職で一度鶴岡から離れて行った方、もしくは何か鶴岡とはかぎらず山形に縁のある方をたぐりよせていくことが最も効果的かと思っておりますので、そのような方の U

ターンを増やしていく。そのためにはいかに子供たちに鶴岡の良さを十分に体験できるかというところで、今後、教育とか地域の活動であったりが重要になっていくかと思います。その他、首都圏において直接鶴岡に関わりのない方へのプロモーションも併せて設けていきます。

**○奥山康光委員** 山大でスマートテノワールという事業をやっていて、それを提唱されたカルビーの前社長の講演を聞いているとドイツの話だったので、都会にいて結婚して出産したが離婚したという方は帰ってくる人が多いという話でした。たぶん東京も同じで都会で結婚して出産して離婚して苦労している方を対象にすればもっと集まるのではないかという気がしています。なぜなら、今、説明会に来る方というのは生活に余裕があって他のことを考える余力のある方が来ると思います。今日、明日の食事代を稼がなければならぬという方は参加出来ないと思いますので、そういった方にターゲットを絞ってこちらにIターンを誘ってみてはいかがでしょうかと思いました。

先程のサイエンスパークの件ですが、私も地元にあることは知っていたのですがなかなかお邪魔する機会がないので、どうすれば見学できるのかなと思っていたので、たぶん私みたいにあるのは知っているけど、一回行ってみたいという方にPRしてはいかがでしょうか。

**○丸山克夫委員** 地域振興計画に基づく主な取り組みの中で、藤島地域の農産物の知名度アップと販路拡大を図りますとありますが、今まで野菜、たまに名前出たことあるけど、藤島の農産物というのはどんな野菜を想定しているのか。それと販路拡大とあるが、他の地域への販路拡大なのか。地域の中なのか。もっと売りたいというけど。ただ売りたい言っても、今各農家で少しずつ「ぼっぼの湯」「楽々」「A コープ」「エイブル」など分散して出しているの、なんとも中途半端な感じを受けるんだけど、これは一本化することなど何か考えているのでしょうか。

**○小林産業課長** 人と環境にやさしい農業の推進事業の中でエコタウンプロジェクトを進めているわけで、その中で引き続き消費者との交流の推進とか販路拡大を行っています。

具体的には、藤島地域の安心安全な農業という有機栽培ですとか特別栽培への取り組みが多く、それを広めましょうという取り組みを進めています。さらに、その有機栽培ですとか特別栽培のお米について首都圏での販路拡大するというので、横浜の保育園の方で藤島の鶴岡I型について具体的にこういうことしていますとか取り組みを紹介したり、イベントで販売したり、そういった首都圏での販売を主にしています。地元での取り組みを市としては行っておりませんが、農家の方々には産直で地場産の農作物を広めてくださいということをお願いしております。そういったことを通して周知を図っています。

**○富樫正明委員** 今年、大雨で河川が増水して、消防団も出動しました。時々増水するの

ですけれども今年の特徴が異常で、京田川の上流の方で詰まって下流の方に水が平均に流れないということで、河川の周りの雑木が結構大きくなっておりまして、それにゴミなどが引っ掛かり、途中そこだけがダムみたいに増水してしまっているような状況でした。県河川なので、そのところ県に強く呼びかけてほしいです。京田川だけでなく藤島川も結構、柳の木とか大きくなってきていますので、早めに整備の方をお願いしたいと思いますのでよろしくをお願いします。

**○太田東部建設事務室長** この間の市長と語る会でもその話は出たのですけれども、河川改修そのものはそれなりに進んでいますが、特に維持管理の方は良くなかったため、増水したというのが、今年の夏の特徴だったということで、改めて維持管理のことを強く県に要望しています。先般、8/31にも市として要望したところですが、市建設部の河川担当から県の河川担当に毎年継続的に続けて要望しているものもあります。その要望書の中で支障木の撤去や浚渫などについては、オール鶴岡として、特に藤島地域と羽黒地域の藤島川と京田川や黒瀬川のプライオリティを高くしております。そうしたこともあって、当初予算から計画して実施する箇所もあり、今般、県の9月補正予算においても予算化につながっているものです。

現在、県においても河川機能の強化ということで「流下能力向上計画」をつくるべく、作業中であるとお聞きしております。市としましては、この「流下能力向上計画」の策定にあわせ、計画的な河道の断面確保と適正な維持管理が推進されるよう、改めて要望しているところであります。

**○上野隆一会長** 以前から少子高齢化と言われているが、最近になって徐々にその影響が現実化してきたという気がしておりますし、今の河川のこともし、耕作放棄地のことも、空き家の話しも建てたものがだんだん震え上がってきているようです。こんな時代というのか、われわれ未曾有の時代を今くぐりぬけているところですから、色んな事が出てきている。社会が傷んできているという風を感じる。その痛みをどういう風にしてこれからはどうしていくか、どのように治療していくか、これが今後の大きな課題になっていると思います。かなり、歳月の係る事業になっていくと思います。今後ともいろんな事業を進めていくことで、今回の懇談会終了いたしたいと思います。

## (2) その他

**○本間総務企画課長** それでは終了の前に、先日、皆様から歴史公園の愛称を決定していただきましたので、そのことをご報告したいと思います。

**○齋藤総務企画専門員** 皆様お忙しい中、10月19日、検討委員会にてご検討いただきましてありがとうございます。その中で、歴史的な公園であり呼びやすく親しみやすいということで「ヒスカ」を選考いただきましたが、最終的には市で決定することとな

っておりましたので、標記につきまして市で若干、調整させていただきました。お手元の資料にごさますように、歴史(History)がある地ということ。花(藤)にこだわった公園であることが伝わること。明るいイメージが伝わることという観点から整理し、History(歴史)×Utopia(ユトピア)×花(藤)という意味の『Hisu<sup>ヒス</sup>花<sup>カ</sup>』に決定させていただきましたので、ご報告させていただきます。

○本間総務企画課長 以上のように整理させていただきたいと思いますので。ご了解いただきたいと思いますがご了解いただけますでしょうか。

○全員 了解

4. 開 会 (本間総務企画課長)